

学校だより

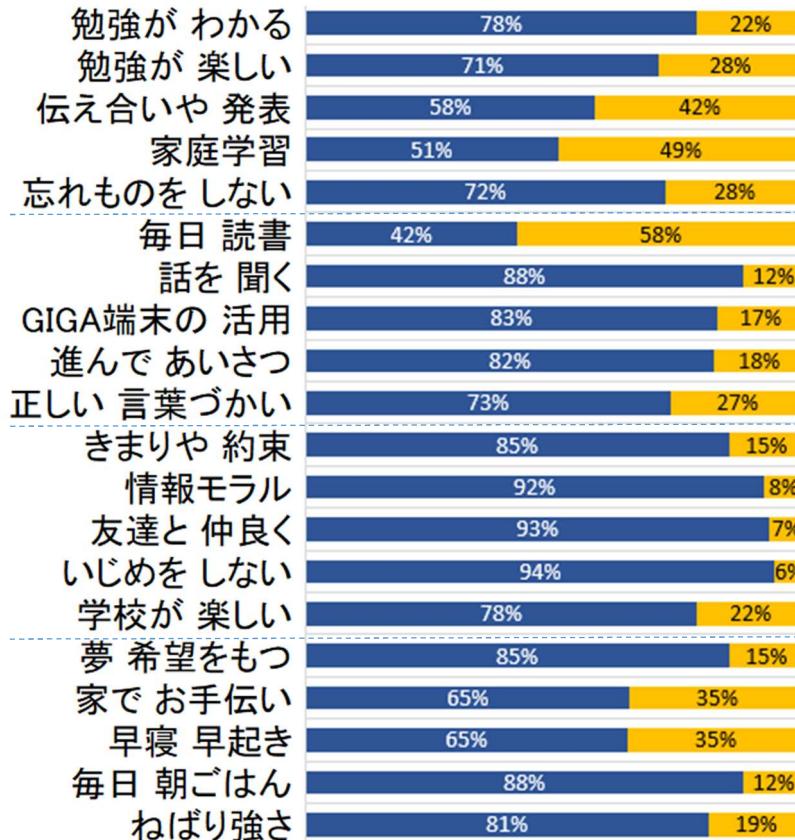
令和8年2月18日 特別版
京都市立向島小学校
校長 鎌田 真行



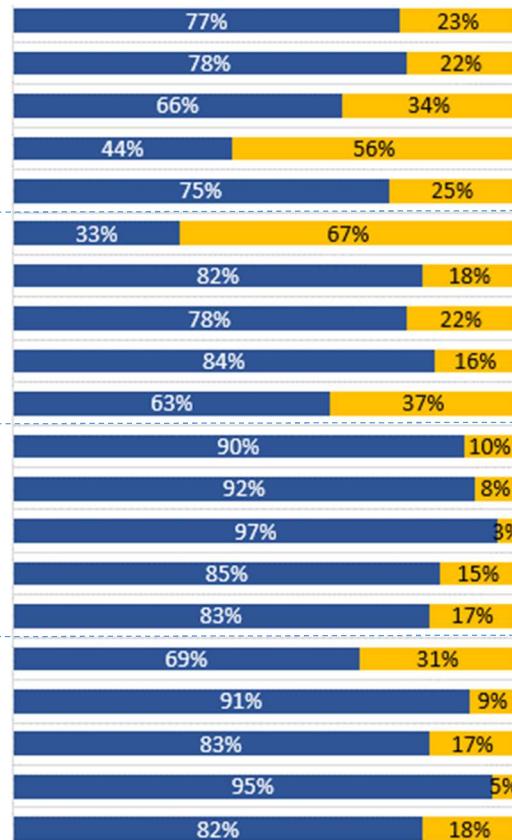
後期学校評価結果の考察



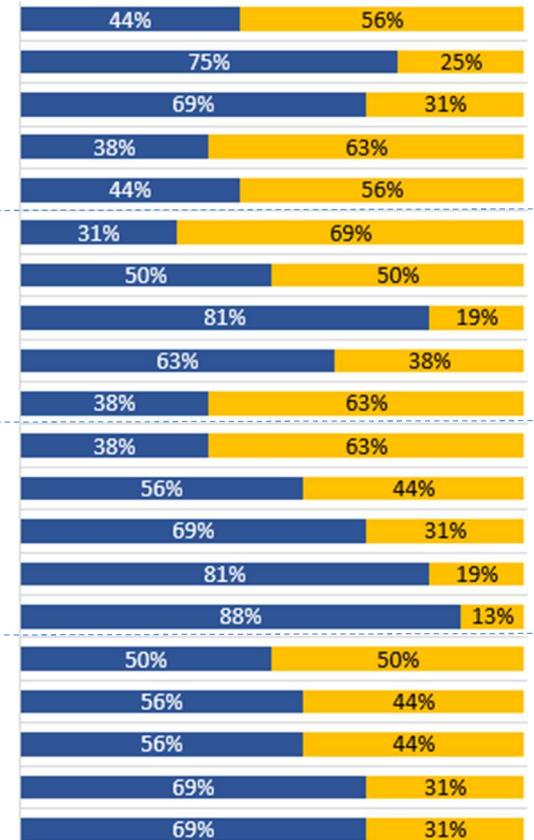
児童



保護者



教職員



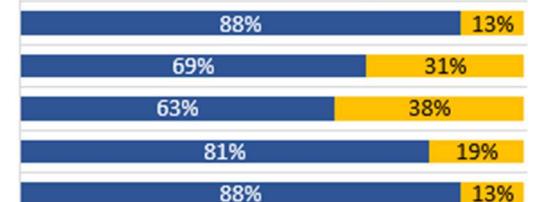
グラフは学校評価（4段階）の

・「よくできている」、「だいたいできている」の合計（左側）

・「あまりできていない」、「できていない」の合計（右側）

- | | |
|------------|------------|
| ・よくできている | ・あまりできていない |
| ・だいたいできている | ・できていない |

人権を大切にした教育
教育方針を知る
学校の様子を知る
気軽に質問や相談
学校行事への参加



平素は、本校教育にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、2学期末に回答いただいた「学校評価アンケート（後期）」につきまして、集計と確認が終わりましたので結果をご報告させていただきます。

お忙しいところ、多くの方にご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

また、アンケートについての考察を以下のとおりまとめさせていただきました。併せて、ご確認いただきますよう宜しくお願ひ申し上げます。

考 察

成果と課題



学びに向かう姿勢 【勉強がわかる】【勉強が楽しい】

「勉強がわかる」「勉強が楽しい」と感じている児童が多く、学習への意欲が育っている様子が分かりました。授業での発言や、ペアでの学び合いを通して、自分の考えを言葉にする力も伸びています。保護者の皆様の励ましや見守りに、心より感謝申し上げます。

ただ、「家庭学習」からは、学習の習慣化までにはまだつながっていないことが分かります。他のアンケート結果からでも、本校の児童は勉強以外でのスマホやインターネットの使用時間がとても長いということも分かっています。課題を与えるだけではなく、子どもたちの意識も変えていく必要がありそうです。

生活習慣と行動面 【忘れものをしない】【進んでいいさつ】【きまりや約束】

「あいさつ」「忘れ物」「時間を守る」などの生活面では、児童と大人で評価のギャップが見られました。学校生活で見られる様子としては、『授業で必要なものがそろっていない』『ルールが守れない』などという児童の姿が想像されます。生活習慣づくり・行動面の育成は継続的な支援が必要であり、課題の実態と自己理解をすり合わせる必要もあると考えられます。まずは、子どもたちの「小さな成功を見取ってほめる」ことを大事にして学校・家庭・地域で見守っていければと思います。

学校・家庭・子どもが同じ方向を見るために

今回の評価でも、児童・保護者・教職員で見え方の違いが顕著に表れた項目がありました。学校でも、日々の学習や生活で大切にしていることを分かりやすく発信し、子どもたち自身が自分の行動を振り返る機会も増やしていきます。学校と家庭が同じ方向を向くことで、子どもたちの成長はより確かなものになると思います。今後も、気軽に質問や相談をしていただける関係作りに努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。